令和７年度　第５回湯沢学園学校運営協議会　会議録

令和８年２月９日（月）15：00～16：30

会場　湯沢学園　会議室

１　開会のあいさつ

今年度最後の学校運営協議会になる。正月明けの挨拶運動での様子を見ていると挨拶が良い子と悪い子がはっきりしているように感じた。メディアコントロールに関係して話をすると、家での使用方法について時間を設定しなかったり夜中までゲームをしてしまっているなどの話も聞く。メディアに対して保護者の意識を変えていかないと子どもたちも直っていかないと思う。改めて学校運営協議会でも考えていけたらと思う。今季は大雪となり通学路も危険な箇所が存在する。状況によっては朝の歩道除雪が間に合わなくて子どもたちの長靴が埋まるほどの降雪になる日もある。町にも除雪の要望をしていきたいと思うが、皆さんも何かあれば声を出していただきたい。

２　学園の取り組み状況

①　中学校

２月３日から４日までインフルエンザにより８年生が学年閉鎖となった。また２月 11 日から３日間８年生が修学旅行に出かける予定である。小中連携の取組については、計画に沿って概ね予定通り行えている。１月 30 日には９年生がこども園に訪問しふれあい活動を行なった。今の９年生は統合した当初の年長児にあたりこども園の職員も懐かしがっていて、非常に良い活動になったと感じている。入試関係が年明けから始まっていて、２月から私立入試が始まっている。合格者も何人か出ているが、ほとんどの生徒は３月に行われる公立一般入試を受験するので今準備を進めているところである。入試の事務処理がオンライン上の手続きに変わっていて、学校からの申し込みではなく保護者が申し込んでいくような形式に変わってきている。そういった情報共有を密にしながら、学校でもフォローをしっかりしていきたいと考えている。

②　小学校

10 月 31 日創立 10 周年記念の学習発表会を行なった。各学年学習してきたことを発表を通して湯沢町の素晴らしさを感じ、学年内の絆を深めることができた。11 月 21 日にあおぞらまつりを行った。1 年生から 6 年生までの縦割り班で、企画を考え出店を行なった。当日は年長児と７年生が一緒に店を回り年長児から７年生まで笑顔溢れる時間を過ごすことができたのではないかと思う。11 月 28 日、学習参観で道徳の授業を実施した。人権教育強調週間に合わせて、全校一斉の道徳の授業公開を行なった。家庭と連携した道徳教育の推進を図った。1 月 16 日から各学年 4 回ずつアルペンスキー授業を実施した。今年度も多くの保護者、地域ボランティアの皆様、スキー場関係者の皆様からご協力いただいた。2 月 6 日には、3、4 年生がスキー記録会、5、6 年生がスキー競技大会を実施して、一人一人が練習の成果を発揮し、精一杯の滑りをすることができた。1 月 28 日に新 1 年生体験入学保護者説明会を実施したが、インフルエンザが流行っていたた

め当日は新1年生と5年生の交流は延期し、保護者説明会のみ実施した。残り1か月半、各学年年度末の学習や生活のまとめと、新年度に向けた準備を行っていきたい。3月24日の卒業式に向けて全校で気持ちを高め準備を進めている。2月20日には、児童会主催で5年生が中心となり卒業を祝う会を予定している。6年生に感謝の気持ちを伝え、卒業式へとつなげていくとともに、5年生への次のリーダーとしての自覚を育んでいきたいと思う。4月に249名でスタートし2月現在264名と15名の増となっている。不登校・不登校傾向の児童が複数いるが家庭状況を考慮しながら教育委員会や子育て支援課、スクールカウンセラーと連携し対応にあたっている。

③ こども園（南雲園長欠席）

今年度園児数152名でスタートしたが、現在園児数は167名となった。秋は熊の出没が相次ぎ散歩先も制限されたが、学年に応じた屋外活動を安全に実施することができた。12月4日の3歳以上児発表会は、学年ごとに入れ替えをしながら実施した。たくさんの方が観覧してくださった。新年を迎え、お正月遊び、コマ、カルタを楽しんだり、遊戯室で体を動かして遊んだり、園庭や第二グラウンドで、雪遊びを楽しんでいる。また、3歳以上児クラスはそり遊びを中里スキー場で楽しんでいる。感染症について、インフルエンザ、コロナウイルスにかかる園児はいるが感染拡大には至っていない。感染症状況については、メールで保護者に周知し基本的な感染症予防対策に協力していただいている。3月26日に40名の園児が卒園予定となっている。

3　報告

① 令和7年度学園運営方針の振り返り

今年度湯沢学園は保小中統合から10年を迎え周年記念事業に取り組んだ。10月には記念式典を開催し10年目の節目を地域の方々、保護者の皆様からご協力いただきお祝いすることができた。現在作成している記念リーフレットは毎年配布している学園カレンダーとともに全戸配布する予定である。地域とともにある学園の活動を推進するために、地域学校協働本部と連携していき地域、保護者の皆様と貸し借りでない関係性について模索しながらその構築に努めてきた。新たな取り組みというよりは、今までやっていた取り組みを見直したり役割を整理するということが多かった。これからも学園からいろいろな発信を行い定着を図っていきたい。今後さらに、工夫・改善が進んでいくよう我々教職員も含め学園全体の意識改革を促していきたい。情報発信については、学園だけではなく地域学校協働本部とともに進めていきたいと考えている。教育目標である“人を想い、我を磨く”の具現化を図るべく、核となる８つの教育活動をコスモスプランとして示した。その中のひとつであるＩＣＴの活用として１月に学習端末の入れ替えを行った。入れ替えによって教職員も慣れるまでに時間を要したり、既存の周辺機器が使用できないものもあり今後も整備が必要だが有効利用し、その活用方法についても深め広げていきたい。学習資料集である、“大好き湯沢”という冊子が上・下巻であるが、今年度は改訂を図る年であり、現在見直し作業を行なっている。令和8年度には児童生徒に新しく改訂したものを配付する予定でいる。4月に実施された全国学力学習状況調査についてはは議会だよりや学園だよりの中でも周知をしている。6年生については、国語、算数、理科の3科目全てで全国及び県平均を下回る結果

となった。9年生は国語と理科は全国平均、県平均を上回るか同等であったが数学は下回る結果となった。学力向上、心の教育の充実、体力の向上、この3つの重点項目は後ほど学校評価の説明時に説明を行う。湯沢学園は経験年数の浅い先生方が多く勤務している学校である。そういった実態から学園の方針としては働きやすい環境、心理的安全性の高い職場づくりに努めた。仕事に対して気づいたこと、感じていることについて、自由に話ができたり相談できるという環境づくりに努めてきた。全職員が健康を維持し働くということが、笑顔あふれる豊かな教育活動につながっていく。それが、子どもたちにも伝わっていくと考えている。職員一人一人がチーム湯沢学園の一員として自覚を持って力を尽くしてくれている。いじめの認知件数については、小学校では12件、中学校では7件認知している。家庭訪問や、放課後登校、別室登校などの対応をしている。登校が難しい児童生徒に対しては外部機関との連携、リモート等で対応を行なっている。学校運営協議会や学校保健会等で、メディアとの関わりについて取り上げていただいたが、苦慮している保護者がいるということが分かった。今後も問題を提起し考えを共有させていく必要がある。今後私たちが予想しないような急速な技術革新があると感じている。生成AI等の技術を教育にもうまく活かしていくという観点も持ちながら運営していく必要がある。職員も含めてその利便性、有用性についてうまく取り入れながら指導に活用していきたいと思っている。今年度もいろんな方々から支えていただき教育活動を展開することができた。

学校評価について。知・徳・体に沿って学校評価を行なった。児童アンケートからの評価、考察。

・知育については自ら意欲を持って主体的に学ぶ態度の形成を目指してきた。

【評価】

前期は友達と学習して分かるようになる。中期と後期は仲間と対話を重ねることで分かるようになる。というアンケートで評価を行なった。7月、12月ともに前期中期後期A評価となった。結果から子どもたちが友達と一緒に勉強したり話し合って授業をすることに対して楽しく行っているということが分かる。２つ目は前期は良い姿勢で話す人を見ながら話を聞いている。中高期は話す人を見てうなずいたり相槌をしながら聞いているという項目に対して7月は前期と中期がC、後期がA、12月には全てBとなり総合B評価となった。1学期はなかなか姿勢が整わないというところがあったが、取り組みを進め少しずつ良い姿勢で聞く児童生徒たちが増えてきたと感じている。3つ目は小学校は国語と算数のワークテストの平均点が85点以上でA、75点以上でB、75点未満でC評価。中学校は定期テストの平均点が60点以上でA、50点以上でB、50点未満でC評価とし、国語は7月も12月もどちらもB評価となった。算数については中期がC評価となったが12月の調査ではB評価となったので向上している。これからCRTという学力テストの結果が出るので、それを見てまた考察していく。

【まとめ】

成果としては、友達や仲間と学習することへの意識の高まりを感じている。また聞く意識が高まって姿勢が良くなってきたと思うが、課題として基礎学力の低さが見られる。各各学年で身につけ

なければいけない学力を身につけないまま上がってしまう子どもたちもいる。それが勉強嫌いにも繋がっていると感じている。家庭学習量の少なさも結果として出ているのでメディアコントロールと合わせて改善をしていきたい。

・徳育については、思って動く社会性を育む教育活動の充実を目指した。

【評価】

前期は誰かが困っているとき、声をかけたり助けてあげたりしている。中高期が仲間と認め合い、協力して学校生活を過ごしているというアンケートに対し80%以上でA、60%以上でB、60%未満でC評価とし、7月、12月どの学級もA評価となった。心理的アンケートQUによる調査では、全国平均よりも5%以上高いとA、全国平均との差が5%未満でB、全国平均よりも5%以上低ければC評価とし、7月は前期B、中期B、後期A評価という結果となった。

【まとめ】

成果として、仲間と認め合い助け合おうとする意識の高まりを感じている。所属意識の高み、居場所があると感じている子どもが増えてきていると考えられるが、課題として一部の学級では不適切行動や言動等で苦戦している学級もある。そういった子どもたちにどういうアプローチをしていくか、学級をどう経営していくかが課題である。不登校・不登校傾向の児童への対応も教育委員会、外部機関と連携して取り組んでいきたい。

・体育については、基礎体力の向上と健康な進出を目指す教育活動の充実を目指した。

【評価】

前期は学校で元気よく体を動かして生活している。中期は授業や部活動で目当てを持って運動している。後期は運動面で自己の課題や目標を把握し、改善発展に努めているというアンケートに対して80%以上でA、70%以上でB、70%未満でC評価とした。7月も12月もどの期でA評価となっている。また前中期が健康に気をつけて生活している。後期が生活面で自己の課題や目標を把握し、改善発展に努めているというアンケートに対し7月、12月で両方ともA評価となった。メディアコントロールに関するアンケートによると、平日でメディアの使用時間が4時間以上使用している児童生徒の割合が30%を超えている学年が複数学年あった。これは家庭学習にも影響が出ていて平日の家庭学習の時間が30分未満の児童生徒の割合も高くなっている。このようなデータからメディアと家庭学習には関係性があることが伺える。

【まとめ】

成果として運動に対する高い意欲が感じられる。目標を持って運動に取り組むことができる児童生徒が多いということがわかった。課題は基本的な生活習慣の定着に個人差があり、生活が乱れている子どももいるということが分かった。そしてメディアコントロールも課題として出てきている。学級への所属意識の高まり、運動に対する意識の向上はあったと感じているが、課題として基礎学力の低さ、生活習慣、家庭学習、メディアコントロール等が見えてくる。単純にメディア時間

を減らせば学力が上がるというわけではない。学習意欲の向上が大切になってくる。メディア依存に関する研修を受講した際に、メディアを取り上げるのではなくメディア以外に取り組むことを増やしてあげることが大事。メディアではない楽しいことを見つけることがメディアが減っていくことに繋がる。あとメディア依存に陥っている子どもは孤独である。関わりが薄くなればメディアに依存していく。まず取り戻すべきは人と人との関わりを増やしていくことが必要であるという講師の話があった。学力向上に対して親の関心を上げるということ。子どもがどれだけ勉強をしているか、どんな勉強をしているのかを親が関心を持っているかどうかということがすごく大事である。そういった意味でも人と人との関わりが学力向上にも関わってくると感じている。

４　熟議

“令和８年度の湯沢学園を考える”

湯沢学園の強み、課題、そして今後やってほしいことをグループに分かれてそれぞれ考える。

【熟議まとめ】

〔湯沢学園の強み〕

・たくさんの企業、ボランティアの方々が協力してくれている。

・高学年が低学年の面倒を見ている姿。昔からあるしこういった関わりは引き続き大事にしたい。

・湯沢は自然に恵まれて都会の騒音などなく学べる環境。四季がはっきりしている。

・子ども同士仲が良い。団結力がある。保小中の連携で自然に縦の関わりが自然にできる学校。

・綺麗な図書館がある学校が町の中心にあることは価値があると思う。

・アンケート結果から子どもたちは自己肯定感が高いと感じた。

・保小中の連携した取り組み、いろんな行事を関わり合いをしながらやっている。

・相手のことを考えながら行動する力っていうのはついてきている。

〔改善点〕

・多様であるが故にまとめるのが大変かもしれない。例えば、校舎が小中一緒になっているので中学校のテストと小学校の休み時間が重なってしまうことがある。

・コロナ以降というところもあるかもしれないが部活動などが縮小していく中で先生方、学校が保護者との関わりの場面が減ってきている。PTA の縮小も影響しているのでは。

・メディアの使いすぎや基礎学力の低さについての関心が保護者の方でも低いのではないか。

・人との関わり方。保護者と職員、地域と学校。地域が広くてなかなか地域の方々が足が運びづらい。統合によって地域から学校がなくなってしまった。地域と保護者、学校との関わりは少し距離があるように感じる。

・学習を自分からやらない、やりたいと思わない。学習の意欲を喚起していく必要がある。メディアをコントロールしながら学習する力をつけていく必要がある。

・いろんなことが二極化と多様化しているということ。これは良さでもあり問題でもある。

・教職員の多忙化が解消できない。

〔やりたいこと〕

・地域の多様性を生かし教育で何かできないか。苗場の方に三国学園がある。全寮制で英語をすごい大事にした教育をしている。そういったところの子どもたちと交流する。

・部活動の地域移行も関係しているかもしれないが、他校と関わるといったような刺激がない。湯沢学園の中で完結してしまっている感じがあるのでそこの関わり方をもうちょっと大人の方で増やしていきたい。

・現在テトルというアプリで学校からのお便りや、お知らせを配信しているが保護者間のコミュニケーションを取るツールとして利用するのはどうか。

・挨拶。職員も意識がもうちょっと向上するといいのかなと感じている。

・地域の郷土料理や伝統などに対してもう少し関心を持ってもらうような工夫をした方が良い。

・学習に差がある件について。放課後子ども教室の活用。もし学習に対して苦手意識がある子どもたちがいたら学習ができるような支援体制を整えていく必要があると感じた。

・学びを楽しくする工夫として企業さんの力を借りる。都会の方だと大きな企業がそれを提供することで企業のイメージアップを図る取り組みをやっているところもある。

・各種検定があるがこれを地域でできないか。今は先生方が時間外でやっているような状況。それのボランティアを募ったり、工夫してやっていただけるようなことができたら良いなと思う。

５　その他

（１）次回の開催予定日時について

４月20日　15：00～16：30　会場：湯沢学園　会議室

（２）その他

地域学校協働活動の振り返り。見守り活動の実施。民生委員さんなどに協力いただき実施した。1日2人から6人ぐらいで巡回を行なった。巡回をしていて大人が見ているということが少なからず抑止力に繋がっていたように感じた。ある一定程度の効果があったと思う。参加している方が顔見知りだったりするとそこで会話が弾んだりしていた。夏場はグラウンドの見回りも行なった。クラブ活動について。先生方の負担を軽減したいということで地域の方が主体的にクラブ活動の指導ができるように取り組みを行なった。地域の方々も初めてのことで戸惑う場面もあったが、それは

地域の方の学びになったのかなと思っている。先生とのコミュニケーションをどうやって取っていいかわからない、どこまで先生に要望して良いのか分からないなどの連携不足が感じられたが今後の課題として改善していきたい。昨年は先生方とボランティアの方でサポーターズ交流会を2回行なった。普段の困り事や活動の様子を話し合うことができて良かった。クラブ活動の取り組みを公民館の方に掲示してもらって紹介を行なっている。先日の9年生の湯沢町の提言では地域とのつなぎ役として連絡調整を行なった。来年度も引き続き学校の負担を減らしつつ子どもたちの学びにつながる活動をしていきたいと思っている。

令和2年度に湯沢中学校を卒業した吉田蓮生さんという方がスノーボードクロス女子でオリンピックに出場する。

6　閉会

本日のグループワークでは楽しく話し合いができ充実した熟議になった。いろいろな意見をいただき今後活動していく上でのヒントをいただくことができた。学校運営協議会、地域学校協働本部が設置されているので学校だけに責任を押し付けないで地域の力で子どもたちの学力向上、あと地域が大好きな子どもたちを育てていけるように皆さんで協力し合って、アイデアを出し合って進めていけたらなと思う。1年間ありがとうございました。